SeF評価

# プロファイル診断レポート_例

大阪公立農場｜ 評価日 2026/04/05 ｜ 対象 0～133日齢 15頭

**子牛の免疫力レベル**
**Poor**
*M.bovis* 不顕性感染率

**幼齢牛の体格**
**91.4%**
45日齢迄の胸囲充足率 目標95%以上

**病原体アラート**
**BCoV**
***M.bovis***
陽性率　13.3%、53.3%

## 1. 牛群の免疫力レベル　判定：Poor

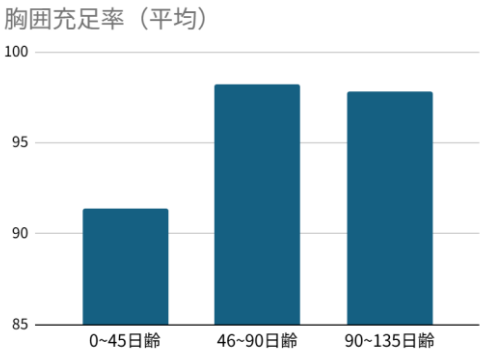
### *M.bovis* 不顕性感染率＝53.3%

病気でない牛の鼻スワブ中で*M.bovis*が検出される割合（不顕性感染率）が多いと、牛群の抗病性（≒免疫力）低下の指標となります。
53.3%と非常に高く、牛群の免疫力が低下しており、BRDCリスクが非常に高い状態であると考えられます

**参考**

| 免疫力レベル | Good | Normal | Poor |
|---|---|---|---|
| 不顕性感染率 | 0%～12% | 13%～32% | 33% 以上 |

## 2. 発育の評価（胸囲充足率）




0～45日齢の胸囲充足率が91%と非常に低く、また、バラつきも大きいです。母牛管理および生後45日齢迄の飼養管理対策が必要であると考えられます

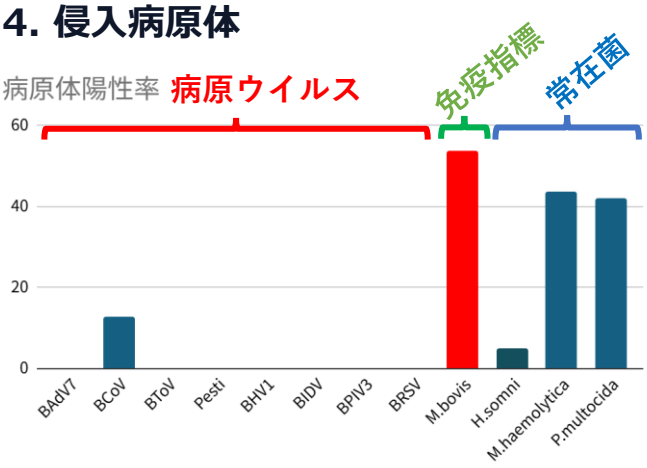
## 3. 気候アラート【要注意時期】

**2月　3月　4月**

対象期間：2025/04/02～2026/04/02

平均日内気温差（寒暖差）が7.5℃以上で、呼吸器病リスクが高い月です

## 4. 侵入病原体




BCoVの侵入が確認されました。
BCoVの排除のための消毒や牛群管理が必要です。
また、*M.bovis*が検出されており、呼吸器感染症が発生した場合は、*M.bovis*による重症化を防ぐための対応が必要です。

## 5. 改善へのプラン

**総評：治療から予防への転換**

- 呼吸器病の発病率が非常に高く、低胸囲充足率、*M.bovis*の高率の不顕性感染が認められます。飼養管理やワクチネーションを改善し、呼吸器病を「治療する」から「**予防**する」への転換を目指すべきです。
- 呼吸器病を「予防する」ことにより、自家治療の低減のみならず、発育の向上も期待できます。

**重要：母牛管理および生後45日齢迄の対策**

- 45日齢迄の胸囲充足率が低く、バラつきも大きいため、生まれてくる子牛の状態（免疫力）にもバラつきがあることが想定されます。
- 子牛の免疫力のためには、母牛管理と生後45日齢迄の飼養管理・ワクチネーション対策が重要です。
- ワクチンの効果は個体の免疫力に左右されるので、まずは母牛管理（MPTを実施されることをオススメいたします）、子牛の飼養管理（初乳・下痢対策）を実施し、その後で生後の鼻腔粘膜ワクチン等を検討されてください。
- また、下痢便からコクシジウムが検出されていますので、コクシジウム対策も重要です。

## 6. レポートの見方とプロファイルの再実施について

- ➡右のQRコードから、農家様向けに農場プロファイルについて解説したYouTube動画が視聴可能です
- プロファイルは**「リアルタイムな改善の評価」**としても活用できます。改善対策を実施した後は、是非再度のプロファイルを行ってみてください

農場プロファイル動画